

2018 年 12 月 7 日

超小型衛星の開発からデータ解析までを一貫して提供し
世界のあらゆる場所を毎日観測できる地球観測網の構築を目指す
アクセルスペースへの出資について

株式会社 INCJ（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝又幹英、以下「INCJ」）は、株式会社アクセルスペース（本社：東京都中央区、代表取締役社長：中村友哉、以下「アクセルスペース」）に対し、同社の事業展開を推進するための資金として、8.5 億円を上限とする出資を行うことを決定し、段階的な投資の初回として、6 億円の出資を完了しました。また、31VENTURES-グローバル・ブレイン-グロス I 投資事業（三井不動産株式会社およびグローバル・ブレイン株式会社により運営）など*も同社への出資を行いました。

*上記以外に東京大学協創プラットフォーム開発株式会社、SBI インベストメント株式会社、第一生命保険株式会社も出資

アクセルスペースは、超小型衛星の設計開発およびそのデータ提供を事業とするベンチャー企業です。東京大学・東京工業大学で生まれた超小型衛星技術を原点に、衛星の開発からデータ解析までを一貫して提供できるという強みを有しています。この衛星を複数打ち上げて地球観測網を構築することにより、1 日 1 回、地球全体を撮影することが可能となります。こうした取り組みによって、急激な気候変動や枯渇するエネルギー資源など、地球規模の社会問題が深刻化する中で継続した観測ができ、さらに農業分野や災害監視、都市計画などに活用できる多様なアプリケーションの創出を目指しています。

同社は、2008 年の創業以来、世界初の民間商用超小型衛星を含む 3 つの実用衛星を設計開発し、打ち上げ・運用した実績を有しています。今後は、地球全体を毎日観測することにより得られる画像やデータを、様々な用途に合わせて提供するプラットフォーム「AxelGlobe」の構築を加速していきます。その構築に向けて、まず 2018 年 12 月に画像取得を目的とした超小型衛星「GRUS」の初号機の打ち上げを予定しており、さらに今回調達した資金を活用して、2020 年に同衛星を 2 機追加で打ち上げる予定です。

INCJ では、健康・医療・介護、素材化学、ロボット、AI・IoT・ビッグデータに加えて、宇宙関連産業を重点投資領域の一つとして投資活動を進めています。宇宙利用産業の拡大の重要性は国の政策でも謳われており、アクセルスペースが自社衛星から取得するデータを活用することによって、産業競争力強化につながる様々なアプリケーションを創出し、日本の産業や人々の生活の

向上、広義の安全保障の確保や経済の発展に貢献できると考えています。

株式会社アクセルスペースについて

設 立 : 2008 年 8 月

本 社 : 東京都中央区

代表者 : 中村 友哉

事業内容: 超小型衛星による地球観測事業、超小型衛星等を活用したソリューションの提案、超小型衛星及び関連コンポーネントの設計及び製造、超小型衛星の打ち上げアレンジメント及び運用支援・受託

URL : <https://www.axelspace.com>

株式会社 INCJ について

株式会社 INCJ は、2018 年 9 月、既存の官民ファンドである株式会社産業革新機構から新設分割する形で発足しました。産業革新機構は、2009 年 7 月、産業や組織の壁を越えて、オープンイノベーションにより次世代の国富を担う産業を育成・創出することを目的に設立されましたが、根拠法である産業競争力強化法の改正法の施行に伴い、同機構は株式会社産業革新投資機構に商号変更し、新たな活動を開始しました。株式会社 INCJ は、産業革新機構の事業を引き継ぐ形で、既投資先の Value up 活動や追加投資、マイルストーン投資、EXIT に向けた活動を主要業務として、2025 年 3 月末まで投資活動を行っていきます。

URL : <http://www.incj.co.jp/>

以上

<本発表資料のお問い合わせ先>

株式会社 産業革新投資機構 企画調整 Gr. 広報 入江、坂井
東京都千代田区丸の内 1-4-1 丸の内永楽ビルディング 21 階
電 話 : 03-5218-7202

【別紙】

新規支援決定案件の概要

1. 対象事業者

- ・事業者名： 株式会社アクセルスペース
- ・設立： 2008 年 8 月
- ・所在地： 東京都中央区
- ・代表者： 中村 友哉
- ・事業内容： 小型衛星による地球観測事業、超小型衛星等を活用したソリューションの提案、超小型衛星及び関連コンポーネントの設計及び製造、超小型衛星の打ち上げアレンジメント及び運用支援・受託

2. 支援決定内容

- ・支援決定金額： 8.5 億円（上限）
- ・実投資額： 6 億円（段階的な投資の初回投資として）
- ・共同投資家： 31VENTURES-グローバル・ブレイン-グロース I 合同会社（三井不動産株式会社およびグローバル・ブレイン株式会社により運営）、東京大学協創プラットフォーム開発株式会社、SBI インベストメント株式会社、第一生命保険株式会社
- ・投資ストラクチャー図： 別紙

3. 投資意義

<社会ニーズへの対応>

- ・ 急激な気候変動、緊迫化する国際情勢、枯渇するエネルギー資源など、地球規模の社会問題が深刻化する中、地球規模で俯瞰した観測を持続的に行うことができる、地球観測衛星および地球観測データの活用ニーズが拡大。
- ・ 2016 年 11 月に日本で「宇宙活動法」が成立し、民間企業が本格的な宇宙事業をビジネスとして展開するための基盤が整備された。政府は「宇宙ビジョン」や「宇宙ベンチャー育成のための新たな支援パッケージ」など、国内の宇宙ベンチャーの支援を掲げており、政府の宇宙産業政策に合致。

<成長性>

- ・ 人工衛星の製造・開発のみでなく、今後市場が拡大されると予測されている衛星データの活用において、既に画像販売システムや解析技術を用いた、地球観測ソリューションプラットフォームの構築に乗り出しており、より付加価値の高い事業への拡大を図る。
- ・ 民間との共同投資により宇宙領域の有望ベンチャーを積極的に共同で支援。
- ・ 研究開発では東京大学、JAXA 等の国内外の政府系機関と連携。これら機関や民間事業会社と資金提供も含めた共同研究・実証等を実施。

<革新性>

- ・ JAXA の衛星設計・製造をベンチャー企業で初めて受託しているなど、特に信頼性が求められる宇宙事業・衛星設計開発等において、実績を上げて高いプレゼンスを確立している。
- ・ 地球観測ビジネスを標榜する事業者は世界に数社存在しているが、全地球を高頻度(毎日)で撮影し、様々な用途の実用に堪えうる解像度で高品質および均一クオリティの衛星画像をデータセットとして提供できる事業者は存在していない。グローバルにおいて競争優位なポジションを確立できる可能性がある。
- ・ 従来の中分解能光学衛星と比較し、視認性、撮影幅、バンド構成で優れた衛星を、低コストで製造でき、既に顧客候補からも高い期待が寄せられている。

投資対象：株式会社アクセルスペース

事業内容：超小型衛星による地球観測事業、超小型衛星等を活用したソリューションの提案、超小型衛星及び関連コンポーネントの設計及び製造、超小型衛星の打ち上げアレンジメント及び運用支援・受託

支援決定金額：8.5億円(上限)

支援決定公表日：2018年12月7日



出資・経営
サポート



* 三井不動産(株)およびグローバル・ブレイン(株)により運営

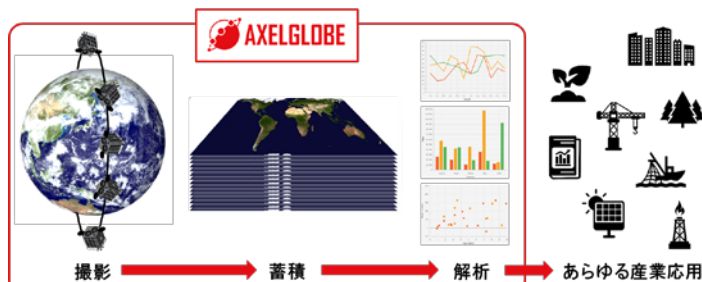
出資・経営
サポート
事業面での協業



出資・経営
サポート
事業面での協業



- 高性能で安価な小型及び超小型衛星を自社開発・設計・打上運用。これらの衛星が撮影する高品質画像データを活用した地球観測事業を展開
- 今後、自社の超小型衛星(GRUS)を23機打ち上げ、全地球表面を1日1回撮影可能な体制を構築し、衛星画像販売および画像解析サービスまでを一貫して提供する「AxelGlobe」プロジェクトを本格稼働



サービス提供



連携・協業

大学・研究機関
(JAXA、東京大学 他)

行政・地方自治体

各種民間企業

衛星画像販売代理店

- 地球規模の社会問題等の深刻化、及び地球観測技術やデータ活用技術の進歩に伴い、小型地球観測衛星や地球観測データの活用ニーズが拡大
- INCJによるリスクマネー供給と呼び水効果により、アカデミア技術の事業化支援、ベンチャーと大企業連携実現のハブの役割、中小企業や民間投資家の航空宇宙産業参入等を促進